

「氷室」巻頭句一覧

巻頭句〔各号の右の句は氷壺集・左の句は氷室集〕

・・・・・・・・・・・・・・・・

平成24年(2012年)

12月号

柘榴食ぶ西域の風はろぼると
鯁に身を預けて憩ふ虫の声

兵庫 矢倉 修
京都 松山 和子

11月号

大の字になりて案山子の役終へぬ
遠洋へ竿燈太鼓打つて発つ

福井 原 稔
秋田 佐々木 成

10月号

涼しさや古地図に辿る水の道
羽化の蛾に草の湿りの重さかな

京都 重富 國宏
茨城 鴻坂 佳子

9月号

樺林の姿勢正しく梅雨に入る
浅草や変はらぬものに泥鰌汁

茨城 余米 重則
京都 重富 國宏

8月号

雲流れやすき五月の伯耆富士
早苗束投げしところに光射す

鳥取 福富 春草
群馬 宮下 明子

7月号

巻かれてもなほ涅槃図の嘆く声
花冷の銀の食器の曇りかな

京都 大南 勝臣
兵庫 喜多 泰志

6月号

算術の書を読む夜のおぼろかな
総督府無き空広し春の風

兵庫 矢倉 修
大阪 鈴木あるの

5月号

風の子に戻つてみだし雪こんこ
風切つて切つて燕はみちのくへ

京都 岩田 裕子
京都 松重 幹雄

4月号

雪積みて山は銜を返さざる

沖縄 屋嘉比順子

寒風の匂ひの犬を抱き上ぐる

京都

水野 純子

3月号

吹越や利根の瀬細くなるばかり
白菜の光とどこめ結球す

群馬
兵庫

志賀 洋子
橋本 真里

2月号

猟銃の重さにことば失ひぬ
しぐれ又しぐれこれより大江山

茨城
大阪

余米 重則
岡田 幸子

1月号

神名備の裾やはらかや豊の秋
鑿先に仏出でくる秋の夜半

岡山
茨城

木村 静子
余米 重則

平成25年(2013年)

12月号

秋の蝶かげをだいに重ねけり
ふるさは今も旧曆玉祭

京都
沖繩

三和 幸一
屋嘉比順子

11月号

星とんで十和田湖深く魚眠る
血管のむくと浮きたつ大暑かな

茨城
三重

鴻坂 佳子
森 すゞ子

10月号

島一つ占めたる寺や合歓の花
太陽を受止めてゐる蓮の花

秋田
岐阜

佐々木 成
大口 彰子

9月号

夏の雨影もつものを鎮めけり
円周を植田の空にこふのとり

岐阜
兵庫

大口 彰子
中嶋 文子

8月号

実桜や講座の席の定まりぬ
来し磴は帰る磴なり青葉冷

大阪
島根

藏野 陽子
伊藤多美子

7月号

野火猛る戊辰の役の激戦地
鞆をこぐ青春の高さまで

秋田
岐阜

佐々木 成
大口 彰子

6月号

曇天の解けて春の海となる

兵庫

橋本 真里

あたふたと春の大雪掻きにけり

秋田

佐々木 成

5月号

木缺を鳴らし地虫を誘ひ出す

京都

大南 勝臣

伊勢まゐり翁の伊賀を越えてきし

大阪

藤岡 満